

二尊院の 二十五菩薩来迎図

いま明かされる
未知なる仏画の美！

土佐派という日本絵画史上の大流派の出発点
ともなる作品で、重要美術品の認定も受けた
歴史的名幅の魅力を、撮り下ろしによる全幅
の高精細写真、充実の論考、修理記録などで、
余すところなく初紹介。



小倉山二尊院 [編]

本書の特徴

❖京都の古刹、二尊院の寺宝《二十五菩薩来迎図》にクローズアップした初めての出版

百人一首にも詠われた「小倉山」の麓にある二尊院は、釈迦如来と阿弥陀如来の二尊を本尊とすることで有名だが、《二十五菩薩来迎図》は、これまで保存の観点から公開されることは稀で、知る人ぞ知る寺宝だった。しかも、来迎図というと、ふつうは阿弥陀如来を中心に全ての光景が一幅に描かれているものが圧倒的に多いなか、この《二十五菩薩来迎図》は、阿弥陀如来は登場せず、二十五菩薩に地藏菩薩と竜樹菩薩を加えた27の菩薩が来迎する様子を17幅に分けて描く非常に珍しい構成をとる。本書は、その全貌を紹介する初めての出版となる。

❖土佐派の実質的な祖、土佐行広の知られざる大作の美を、高精細写真で紹介

作者の土佐行広は、「土佐」の姓が明らかな最初の画人で、現在まで続くやまと絵の画派である土佐派の実質的な祖とされている。宮廷や幕府などの仕事でも活躍をしたこの画家が、自ら結縁者に名を連ねたこの《二十五菩薩来迎図》を、撮り下ろしの高精細写真で収録。截金や切箔などの繊細な技法の細部や、重厚な彩色の質感まで大判の図版で紹介する。

❖美術、歴史、科学調査、それぞれの分野の専門家による論考を収録

美術分野は金子信久（府中市美術館学芸員）、歴史分野は高橋大樹（大阪市歴史博物館学芸員）、科学分析は仲政明（嵯峨美術大学大学院研究科長）と、それぞれの分野の専門家が《二十五菩薩来迎図》と二尊院をめぐる論考を展開。美術史的な観点からは、来迎図の歴史における《二十五菩薩来迎図》の位置付けと特殊性について、その価値を再評価する。

❖仏画の修理を丹念に取材し、写真と文章で詳細に紹介

《二十五菩薩来迎図》17幅の修理を手掛けたのは、京都の老舗「中村弘明堂」三代目表具師の中村圭佑氏。その修理の過程を丹念に追い、京都に伝わる職人技の粋を紹介する。

小倉山 二尊院について

紅葉の名所としても名高い「嵯峨三名跡」の一カ寺。嵯峨天皇の勅願により、第三代天台座主（円仁）が承和年間（834～848）に建立したことに始まる。奈良の仏師によってつくられた本尊二尊は重要文化財に指定される。



二尊院本堂



書影

二尊院の
二十五菩薩来迎図

国書刊行会

『二尊院の二十五菩薩来迎図』

小倉山 二尊院 [編]

A4判・並製・カバー装

定価：本体 3,800 円 + 税

ISBN：978-4-336-07454-6

国書刊行会

〒174-0056 東京都板橋区志村 1-13-15 TEL:03-5970-7421 FAX:03-5970-7427
<https://www.kokusho.co.jp> e-mail:info@kokusho.co.jp

取扱店

申込書

ご記入後、お近くの書店へお持ち下さい。

『二尊院の二十五菩薩来迎図』を _____ 冊 注文します

お名前

ご住所

お電話

2023年8月刊行

定価：本体 3,800 円 + 税

発行 国書刊行会

